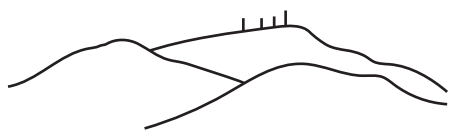


# Youth Manna

2021/6/21 - 6/27



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/6/21(月)

## 使徒 12:1-17

12弟子の一人のヤコブがヘロデ王によって殺されてしまい、ペテロも捕らえられてしまいました。もし自分たちの教会に同じようなことが起こっていたら、みんなはどんな気持ちになっていただろう？

このとき教会は、ペテロのために熱心な祈りをささげていたと書いてあるね。神様は御使いを遣わして、驚くような方法でペテロを救い出したよ！「使徒の働き」の著者のルカは、ペテロが不思議な方法で救い出されたことだけでなく、そのとき教会が祈っていたことも大切なこととして伝えようとして記しているように思えるね。

今、家の教会の仲間と心をつにして祈りたいことはなんだろう？一緒に祈りたいという気持ちも、普段から家の教会の仲間に分かち合って祈り合っていこう！！

2021/6/22(火)

## 使徒 12:18-25

ヘロデ王はユダヤ人からの支持を得るために、弟子のヤコブを殺し、ペテロを捕らえました。演説の様子を読んでも、ヘロデは政治家として人々の心を動かすことに長けていたようだね(21-22)。だけど彼は、人々の関心を買うことや自分が高められることが第一で、神様を恐れることは二の次のようだったね。

結局彼は神様に打たれ、小さな虫に食われて死んでしまったんだ。それは彼が神様に栄光を帰さなかったからと書いてあるね。

神様に栄光を帰す生き方とはどのようなものだろう？みんなは何のために生きているかな？自分の普段の振る舞いや態度、生活がどうであるか、思い巡らして考えてみよう！

2021/6/23(水)

## Ⅱ 歴代誌 1 章

ダビデの後継者としてソロモンは、豊かな国力と人材、そして民全体の支持を受け継いだ。それは大きな力であったが、同時に、多くの判断を常に求められる責務でもあった。

ソロモンは礼拝のためにギブオンに行き、王として神の前に歩むことを誓った。それに対する神からの答えが、願うものを与えるというものであった(7)。神に支えられている王として、ソロモンは最も相応しいことを願った。彼は、王として民のために責務を果たすことができるように、知恵と知識を求めた。軍事力や財、他国に勝利することではなかった。神のもとに国を収めていこうとする姿勢が表れている。

神様のもとにある人生を歩む上で、あなたは今、神様に何を求めるだろうか？

2021/6/24(木)

## Ⅱ 歴代誌 2 章

### ソロモンの神殿建設

ソロモンは、壮大な神殿建設を進めるため、宮を完璧なものにするため、ツロの王フラムに製造、彫り物、製材の技術者を送るよう協力を求めた。フラムは、異国の異教の王である。しかし理解を示し要請を聞き入れた。

後の時代には、イスラエルが捕囚の民だった時、異国の異教の王であるクロス王が用いられている。

信じているものが違う、敵と思える者すら神様は用いられる。神様の計画は私たちには計り知れない。私たちに適切な助け手を与えてくださる神様に期待して歩もう！

2021/6/25(金)

## Ⅱ 歴代誌 3 章

神殿建設が始まったよ！モーセに示された会見の天幕と比べると、その規模は大きくなっているね。設計図はダビデが御霊によって示されたもの(Ⅰ歴代誌 28:12)をソロモンが受け継いでその通りに設計したんだ。

大きく、壮麗に建設がされている様子が読み取れるね。モーセに示された幕屋とは大きさや規模が異なるけれど、この神殿の聖所や至聖所の作りを見ると、その本質や役割は継承されていることが分かる。時代によって形が変わっても、本当に大切なことは何かを見失わないで歩みたいね！

神殿の中心は神様が臨在される至聖所であり、ここが最も重要な部屋でした。今は神殿ではなく、信じる一人一人の内に神様が住まわれると聖書に書いてあるよ！神様を心の真ん中に迎えて、一日を始めよう！

2021/6/26(土)

## Ⅱ 歴代誌 4 章

ソロモンは幕屋の道具もどんでん作っていったね。洗盤や燭台の数がたくさん増えたのは、礼拝にきてささげ物をする人が増えたからじゃないかと考えられている。平穩を手にしたソロモンの時代に人々は安心して神殿へ行き礼拝することができたんだ。今、私たちもオンラインという現代の恵みの中で、それぞれの場所で礼拝できることを感謝していこう！

ソロモンは当時とても高価だった青銅も、重さを量らずに思い切り使って礼拝の場所を整えていったね。私たちが今自分ができる1番いい形で賛美や祈り、献金、メッセージを聞くなど…最高の礼拝をしていこう！

2021/6/27(日)

## Ⅱ 歴代誌 5 章

神殿完成の最後は、造り終えた建物に契約の箱を運び入れることでした。契約の箱の中には、モーセが神から与えられた契約を記した板が二枚納められており、これは、神様からのことばを中心として、歩んでいくことの現れでした。

神殿が完成した時に、神様の臨在によって雲が満ち、それは祭司たちが立っていられないほどの、圧倒的なものでした。人々が造った神殿であっても、それは主が住まわれる場所で、一切の主役は神ご自身であることが強くあらわされています。

私たちが何かを成し得る時、一歩進み出る時、それら一切を導き、満たしてくださるのは、生きて働かれる神様です。生ける神の宮として歩む私たちの毎日が、圧倒的な神様の臨在で満たされるように祈ろう！！